

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870301074		
法人名	社会福祉法人 欣水会		
事業所名	グループホーム だんらん		
所在地	茨城県土浦市穴塚1957番地		
自己評価作成日	2022年8月29日	評価結果市町村受理日	2022年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870301074-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870301074-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染の影響で外出を自粛している。年間行事計画を作成時、施設内でできる行事を多く取り入れている。外食は自粛して宅配で寿司とったり、ミニ模擬店に変更するなどした。季節ごとにスイカ割り、運動会、忘年会など毎月四季を感じることでできる行事を計画、利用者職員が楽しめる機会を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れた、自然豊かで静かな環境にある事業所である。同敷地内に小規模の特養が、広い道路を隔てたところにも特養があり、災害時や職員研修など連携が図りやすい。24時間連絡がとれる協力医がすぐそばにあり、利用者職員との安心に繋がっている。コロナ禍で地域の方と直接触れ合う機会はなくなっているが、地域の方が相談にきたり、災害時には協力してくれるなど、地域に根差したホームとなっている。看取りに取り組んでおり、最期は利用者職員が合掌して見送る。**\*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関を入ると正面に法人理念、事務所内には法人スローガンを掲示、管理者・職員は把握し実践している。	コロナ禍前は理念を毎日唱和していた。利用者の意見を尊重し、地域や家族と連携して支援をしている。年度ごとにグループホームのスローガンを考え、年度末には振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、法人全体での行事もなくなり、入所前から老人会等で顔見知りの方と会う機会もない。現在は隣接する協力医院が、入所前からの主治医の方もいることから、先生や看護師と顔見知りの間柄である。	お祭りや草取り、防犯パトロールなどの地域の行事が中止になっており、利用者が地域の方とふれあう機会はなくなっている。利用前からお互い顔見知りだった利用者があり、ホームが一つのコミュニティのようでもある。事業所は地域に受け入れられ、職員が地域の方からの相談にのっている。家族が野菜など差し入れてくれることがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接電話で相談を受けることがある。コロナ禍前は、ホームに来られ相談を受けることもあった。経験豊富な職員が対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議の開催を見送り、書面に対応しているため直接意見の交換をすることができない。	コロナ禍で、入退所や入退院、外来受診や外出・外泊、行事の状況等を郵送し、運営推進委員に電話をして地元の話を聞いている。市役所には持参しているが、特に意見はない。議事録は玄関に備え付けてあり閲覧することができる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へは毎月初めに入居、退居連絡票を提出している。運営推進会議の開催は見送り書面に対応している。事故報告については報告書提出時に指示を受けている。	毎月、利用状況を市役所に出向いて報告し、担当者と話している。家族から意見が届いたり、事故発生時にはすぐに市役所に報告し、相談することができる良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で毎年講師を招き、研修を実施している。開設時から玄関は施錠せず、職員全員が出て行く利用者に対し、理由を聞き行動を止めないケアを行っている。	法人全体の委員会を毎月開催している。拘束しないケアを実践している。事故の危険性がある方には、職員で話し合い、見守りを強化する。転倒負傷してしまった場合は家族によく説明をする。拘束や虐待については、法人全体の勉強会に参加。最近もオンライン研修を全員が受講した。チェックリストなどを活用して、振り返りを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で行う研修を通して、認識の共通に努めている。毎年虐待について自己点検シートを行うことで振り返り虐待防止の意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年法人全体で講師を招き、研修を行っている。研修後は復命書を提出している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前施設にて重要事項の説明及び契約書の内容説明を行っている。契約書は自宅に持ち帰り、家族間で話し合い納得した上で利用開始日に署名・捺印をして頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には常に声かけやアンケート調査をして要望を引き出す努力をしている。ご家族には面会時や電話の際意見や要望を伺うよう努めている。	家族からは、対面での面会希望が寄せられる。オンライン面会も案内しているが、窓越し面会が多い。家族には、写真付きの「だんらん通信」を送り、様子を知らせている。利用者には毎年アンケートを実施し、まとめた結果をケアに活かし、家族にも送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在は新型コロナウイルス感染予防のため会議は随時開催している。職員が常に率直な意見を言える環境を作り、申し送りノートを活用している。	コロナ禍で定期的な会議は行っておらず、申し送りノートを活用して連絡を周知している。年休の連日取得を勧め、職員同士も協力体制が築けている。人事考課制度の面接では、目標の設定や評価のほか、個別の話もでき、自己啓発の場ともなっている。法人内の人事異動があり、希望を出すことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、自己アピールをすることができる。自己研鑽の啓発や賞与に反映されており、レベルアップに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染拡大以前は、法人内外の研修に多く参加していた。現在は、オンライン研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大後は、交流の機会がなくなり施設見学・介護相談員派遣事業などの受け入れを中止している。サービスの室を向上させるため現在はオンライン研修を受けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍前は、入所申し込み後施設見学を本人にして頂き、職員や利用者と気軽に話せる機会を作り、話の中から趣味や要望、生活歴を聞きケアプランに反映してきたが、現在は入所後会話の中から趣味や要望を聞き取りケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、重要事項の説明時に家族の疑問や希望・要望を聞いている。入所後の面会時(現在はガラス越し面会)家族に現在の生活状況を報告、その際意見や要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望があった場合は、可能であれば本人も施設見学をして頂き、必要性の検討をしていた。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、施設見学を中止している。家族や利用しているサービス時事業所から情報を頂くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしていく上で洗濯物を干したり、畳んで頂いたり。クッションにカバーやひもを縫って付けて頂いたり、マフラーを編んで頂くなど個々の出来ることをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えるために、家族との信頼関係の構築に努めている。現在、面会はガラス越しで面会中職員は距離を置き見守り、面会后近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の許可を得たうえで友人、兄弟、姉妹の方と電話、手紙のやりとりをしている。施設に電話をかけてくる方には取り次ぎをしている。直接携帯電話にかけてくる方もいる。	家族以外の面会も人数制限をしながら支援しており、電話や手紙でのやり取りも勤めている。「○食べたい」の声で食事会を開いたり、好物を家族が差し入れてくれる。日記をつけている利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人とソファやテーブル席 が隣になるよう配慮している。困っている利用者が いると職員を呼んで下さる人もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に何かあれば連絡を頂けるよう伝え、対応し ている。隣接する施設に入所された場合には面会 に行く。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	希望や意向を訴える方は少ないが、日常生活の中 で確認している。年1回のアンケート調査を行い、コ ミュニケーションを図りながら、一人ひとりの意向を 把握し、コミュニケーションが困難な方は、家族の意 向を配慮し検討している。	「ご飯食べてない」などの訴えには、否定すること なく話を聞くようにしている。食事や入浴、行事や サービス等に関するアンケートをとり、結果を反 映できるよう心がけている。コミュニケーションが 取れにくい方は、顔色や表情等を細かに観察して 思いをくみ取り、申し送りノートなどで、情報共有を 図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所前に、家族や担当ケアマネージャーから、生活 歴やその他の情報収集に努めている。入所後も家 族から新たな情報を得て、随時情報を追加してい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	申し送りノートやバイタルチェック表、ケース記録の 活用で現状の把握に努めている。1日の過ごし方 は、24時間シートの活用で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	年に1回サービス担当者会議を開催、本人、家族、 施設担当者間で話し合い、意見交換をすることで本 人にとって最適な介護計画を作成していたが、現在 は新型コロナウイルス感染予防のため電話で家族 と作成担当者でサービス担当者会議を開催してい る。後日捺印を頂いている。	担当者が24時間シートを作り、利用者や家族の 意向を聞きながらプランの原案を作成している。 プランは4月から1年分作成し、状態の変化があっ た時には、変更する。ケース記録は電子化してお り、職員もPC操作に慣れてきた。モニタリングは 3ヶ月毎に実施。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践状況、日々の様子を 記録し、要観察者に対しては個別に記録を残す。会 議開催が難しい中、申し送りノートを活用して職員 間でケアの見直しを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行やその時に最も適したサービスを法人全体で連携を取りながら、提供できるような体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染予防のためボランティアの受け入れは行っていないが、以前は納涼夏祭り・敬老式典等の行事には地域ボランティアの方の協力を得ている。月1回の尺八やロボットセラピーでは学生との交流の場となっていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前、重要事項説明時に本人、家族の意向を伺いかかりつけ医師を継続するか協力医へ変更するか決めている。殆どの方が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の往診がスムーズに受けられるよう、常に情報を共有し緊急時には迅速に対応できるよう努めている。	すぐ近くの医院が協力医院であり、月2回の往診がある。薬の変更や健診の数値に問題があったときは家族に連絡し、記録にも残している。他の専門科受診時には、職員が家族と一緒に同行することもある。皮膚疾患などは協力医院に写真を届けて診てもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やバイタルに変化が見られた際は、すぐに報告、相談して対応している。夜間も変化が見られた際は、随時連絡して適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は協力医からは診療情報提供書、施設からは介護サマリーを作成し情報提供している。担当看護師と情報交換をすることで入院中の状況を把握し、退院の受け入れをスムーズに行えるようにしている。コロナ感染拡大以前は、退院前に病院を訪問、実際に現状の把握と担当看護師から情報の提供を受けていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族の意向を確認し、グループホームでできる対応を明確にし、家族の意向を尊重しながらケアの方向性を考え、終末期のケアについても、家族に十分な説明をして同意を頂いている。	希望があれば看取りにも取り組む。重度化した時には、医師からの情報を家族に伝え、方針を決定する。協力医院は24時間対応で、統括施設長が看護職で指示を仰ぐことができるので、職員の不安は軽減されている。コロナ禍でも看取り期には家族が付き添えるよう支援し、最期は利用者、職員がそろって合掌して見送ってきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な場面を想定した対応マニュアルを作成、周知徹底を図っている。現在は新型コロナウイルス感染予防のため救命救急講習は中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回防災・避難訓練を行っている。法人全体でも協力体制ができています。避難場所として、近隣の福祉学校とも協力体制が取れている。夜間を想定した防災・避難訓練も行っている。	夜間想定も含めた避難訓練を行っており、区長や消防団をはじめとする地域の協力体制もある。同法人の特養では震災時には地域の方に風呂を開放した。備蓄は法人の倉庫に準備され、リストを周知している。発電機の用意があり、定期的に点検をしている。法人全体のBCPを作成中で、グループホーム独自のBCP作成も予定している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格を理解し、一人ひとりの人格を尊重したその人に合わせた支援をしている。特に、トイレ誘導や入浴介助の際は、プライバシーに配慮した声かけをしている。	トイレ誘導時には耳元で囁くように声かけし、入浴時の羞恥心にも配慮している。『ちゃん』付で名前の呼びこは避けている。利用者同士のトラブル発生時には双方の話を聞き、状況に応じて席替えをしたり、ユニットを替えることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1年毎に自己決定が難しくなった。質問方法を閉ざされた質問、開かれた質問と使い分けて要望の表出や自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活を送っていただきながらも、食事の内容や入浴、レクリエーション等可能な限り本人の希望に添えるようにしている。食事のペース、衣類着脱のペース等一人ひとりに合わせて、その人らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、移動美容室の訪問があり、本人の意向や好みをよく聞き、その人らしさを大切にしている。また、日々の身だしなみにも注意を払い、入浴準備や朝の着替えの際は、一緒に服を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや食べたい物を聞き、職員が1週間交代で献立を作成する。新型コロナウイルス感染予防のため外食の機会がなくなり、弁当や生寿司等を宅配で食事会をしている。食事前のテーブル拭きや下膳・お盆拭き等できることを手伝って頂いている。	職員が交代で献立をたて、買い物リストをもとに施設長が買い物に行く。誕生日には、本人のリクエストメニューで提供し、時には家族からケーキの差し入れが届くことがある。旬の野菜を取り入れるようにしている。刺身や寿司、天ぷらなどの希望が多く、季節外れのサクランボを提供したこともある。下膳やテーブル拭きなど、できる利用者が行っている。職員は、一緒に食事をとるのではなく、介助と見守りに専念する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を実施、体重の増減に応じて、協力医、管理栄養士と相談しながら調整、また体調に応じた食事形態の変更、食事が多く望めない方や栄養バランスが悪く改善が望めない方には家族、管理栄養士と相談して栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、痛みや異変(残渣物の量)を観察、週2回の歯科往診時に報告、往診時以外でも連絡を密に取り義歯調整や歯茎の腫れ等が迅速に対応できるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、利用者個々の排泄パターンを把握し、定時誘導・随時声かけを行うことで、トイレでの排泄を支援している。夜間も可能な限りトイレでの排泄を支援している。体調不良時を除きおむつ使用者はいません。	紙おむつは使用しないことを原則とし、布パンツや紙パンツを使用してトイレでの排泄を支援。自分でトイレに行く方が多いが、個人に応じたタイミングで声かけもしている。便秘対策として、医師と相談しながら、ルールを定めた服薬をする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時、ヨーグルトにオリゴ糖をかけて提供、10時の水分補給時に牛乳を提供することで便秘予防に努めている。医師と相談して服薬コントロールを行い、本人の負担を軽減している。リハビリ体操や屋内散歩等、個々の状況に合わせ日課として軽運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が基本で、状況により随時入浴を行っている。同性介助を希望される方は同性職員が介助にあたり、入浴順番など本人の意思を尊重している。入浴のない日は清拭を行っている。	ユニットで入浴日をずらしており、毎日入浴することができる。入浴日以外は清拭や陰部洗浄で清潔を保ち、着替えは毎日行っている。浴槽を跨げなくなった方には、隣接する特養の機械浴で安全に入浴できるよう支援している。しょうぶ湯など季節の湯は楽しむが、入浴剤は使用していない。脱衣所と洗濯室は仕切られ、安全への配慮がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドは入所前から慣れ親しんだ物で休んで頂き、一人ひとりの生活リズムを把握した上で、希望にそった休息の支援を行い室温調整等、まめにチェックし、気持ちよく休んで頂けるよう努める。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬の説明書をユニットごとにファイリングし、職員全員が薬効を理解できるようにしている。服薬までには3度の確認、服薬時には日付、名前、飲み込み確認を徹底し、誤薬防止に努めている。症状に変化が見られた際は、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、簡単な寝具交換枕カバー交換など役割を持って、張りのある生活送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス感染予防のため、少人数での車窓からの桜ドライブ等のドライブを年2回、日常的に外気浴や日向ぼっこを行っている。	コロナ禍で外出は控え、敷地内の散歩や園庭で外気浴、日向ぼっこをしている。花見ドライブやバスを貸切って味覚狩り(ブドウ、梨)にでかけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、ショッピングモールや遠足で買い物をする機会がなく、お金を所持している方もいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は自由にやり取りしている。希望があれば電話の取り次ぎは職員がお手伝いしている。個々に届く手紙や荷物などは本人に渡している。携帯電話の持ち込みも自由である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには民芸家具が置かれている。各ユニットには3人掛けソファが置かれ、ユニットにより特徴のある配置になっている。	天井が高く広々としたホールは、一定の温度に保たれ、個人の暑さ寒さには衣服で調節を図っている。全館空調でトイレなども一定温度を保っている。ならせ餅の木にたくさんの動物ぬいぐるみがぶら下げられ、賑やかさが増していた。大きな手作りカレンダーやイベント時の写真が掲示されていた。日中は、パズルや編み物、バッグ作り、読書や歌など銘々に過ごし、体操は全員で行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットにはソファが置かれ気の合った利用者同士がテレビを観たり笑、時には協力医院診察室になり主治医と雑談する姿がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の説明の際に、自宅で使い馴染みのある椅子やタンス、家族写真を飾り居心地よく暮らせる工夫をしている。	入り口には表札がかかり、自室がわかるようになっている。備え付けのチェストの他に、学習机とイス、ハンガーラックなどがおかれ、家族写真や賞状が飾られるなど、利用者の思いに沿った部屋づくりがされている。個人のベッドを使用しており、低床ベッドをレンタルしている方が多い。陰圧設備を10台用意し、設置している部屋があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー・手すり設置等安全に移動ができるように配慮している。居室内は利用者一人ひとりの身体状況に合わせ、ベッド柵の設置、居室の入り口には手作りの表札がある。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームだんらん

## 目標達成計画

作成年月日 : 2022年12月9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	コロナ禍で感染予防のため、工場見学や施設見学・外食を自粛し外出の回数が減り、また利用者の高齢化によりバスの昇降が困難になってきている。	外出支援と下肢筋力低下の緩和	・下肢筋力低下の緩和を図るため敷地内散歩をレクリエーションの時間に取り入れる。 ・ユニット毎の少人数での外出計画（ドライブ・味覚狩り等）	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。